

平成 29 年度岡山県農林水産総合センター 森林研究所(木材加工研究室) 機関評価結果票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 1人	優れている 5人	妥当 人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・予算の苦しい中、タイムリーな話題とともに、地道な研究にも着手している。 ・運営の基本方針に賛同する。重点分野も時代の流れに対応しているので問題ない。今後はCLT等に期待が高まっているので、木質構造の研究の更なる発展が望まれる。					
2 組織体制及び人員配置並びに 予算配分	非常に優れている 人	優れている 1人	妥当 人	見直しが必要 5人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・大変厳しい情勢の中、やり繰りで成果を上げているが、見直しが必要である。 ・少ない予算でよく頑張っている。特許等の収入については、研究の成果であるため研究費に使えるようにしてもらいたい。 ・住宅等環境変化にともない研究員の増員、予算配分が必要である。 ・限られた人員の中で、人的配置が適切になされている。優れた研究成果を出しているが、さらなる予算の増額は、より優れた研究成果を生み出すであろう。					
3 施設・設備等	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 1人	見直しが必要 3人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・着実に整備されている。 ・新素材等の研究が必要、施設・設備等の見直しが必要である。 ・研究機器の導入は適切に行われている。木質構造関連の研究設備の一層の導入が望まれる。					
4 研究成果	非常に優れている 3人	優れている 2人	妥当 1人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・特許・学会発表を含め、成果物として発信を続けている。論文も発表されると良いと思う。 ・公設試験場として日本でトップクラスの研究成果をあげている。更なる発展を期待する。					
5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、 依頼試験、情報提供等所掌業務の実施状況	非常に優れている 2人	優れている 4人	妥当 人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・順調にこなしている。 ・岡山県内木材工業界に対して十分過ぎる程貢献をしている。					
6 人材育成	非常に優れている 人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・専門知識を有する人の採用も不可欠なのではないか。 ・厳しい状況の中、やり繰りの中で多様な経験を通して、育成がなされていると感じた。 ・研究員は高齢になると必ず退職をする。研究員がこれまで長年かけて蓄積してきた研究に関する諸々のことを今後若手にあるいは組織に如何に継承するかを考える必要がある。					

7 他機関との連携	非常に優れている 2人	優れている 1人	妥当 3人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・県内においては非常に緊密で結構である。他県との交流はもっとあった方がよい。応用面では、独自性・機密性は理解できるが、研究室では基礎にも力を入れており、このような分野では、学会活動などに加え、他県の研究機関との交流は良いことと思われる。 ・大学等の他機関との連携は十分行われている。					
8 県民・地域への貢献	非常に優れている 1人	優れている 5人	妥当 人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・県民へのアピールが一層必要ではないか。 ・十分な貢献がなされている。更に、発展することを祈念する。 ・木材工業界を中心とした県民には十分過ぎる貢献がなされている。一般県民あるいは学校生徒への対応も行われているが、日常の業務で多忙過ぎるが故に、時間的に困難な状況にあるのではと想像する。					
9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・真摯に対応されていると感じた。 ・予算的に厳しい中、前回指摘された事項に対して真摯に検討・対応している。					

総合評価	非常に優れている 1人	優れている 5人	妥当 人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等 ・予算が厳しい中、基礎から応用まで、様々な課題に取り組んでおられることに敬意を表する。 ・環境変化により、新商品の開発、商品使用見直し等が必要。予算、専門研究員等の増の検討をお願いする。 ・非常に優れている。研究員が特別多い訳ではない農林水産総合センター森林研究所木材加工研究室は、これまで木材乾燥の研究分野などで数多くの研究成果をあげ、地域に対して多大な貢献をされて来ており、レベル的に日本でトップクラスに位置していると思う。このような活発な研究活動や啓蒙活動は、同研究室の先人によって基礎作りがされ、現在の研究員がこれを受け継ぎ、地道な実践によって行われて来たものと言える。長い時間を要したかも知れないが、敬意を表したいと思う。今後は益々岡山県独自のカラーを打ち出すことが求められる時代が訪れるものと想像されるが、更なる発展を期待する。					